

広報

まちづくり情報誌

小田原

city of odawara public relations

2007
FEB
/1日

平成18年
神奈川県広報コンク
最優秀受賞

元気に
豆まき！
福は内！！



魅力にあふれる小田原のまちへ

県西部の中核都市として、今なお輝きを増している小田原のまち。
出生率の低下などから、人口減少社会に入ったといわれるなか、
小田原では人口が増えつつあるという、明るい兆しが見えてきています。

◎企画政策課 ☎33-1400

小田原の元気度

人口は、まちの元気度を測るバロメーターの一つです。小田原では、平成11年の200,695人をピークに徐々に減少し、昨年4月に198,398人まで減りましたが、その後増加に転じ12月には198,991人にまで増加しました。

また、毎年12月に小田原駅周辺の商店街やアークロードで行っている流動客調査でも、前年に比べ、商店街では約7,000人増、アークロードでは約12,500人増と、中心市街地での人の流れが12・3%も増加するなど、明るい兆しが見え始めています。

しかし、出生数が少なくなり、食生活、労働形態の変化や医療の進歩で平均寿命が延びていることから、少子高齢化の流れは、小田原でも加速しています。

東海道新幹線とJR東海道本線、そして小田急線と、都心などの主要地と結ばれる大動脈が通っている小田原。その高い利便性や自然に恵まれた環境は、転入してくるかたへの大きなアピールポイントになりますが、それだけでは決め手になりません。だからこそ、まちの元気を取り戻すための方策、雇用定住促進策が重要になってくるのです。

まちの活力を増やそうと

市では、活力にあふれ、人によさしく、まちなみが美しい小田原のまちになるよう、未来への種まきをするために「おだわらネットワーク推進本部」を設置しています。その一つとして、「雇用定住促進」を掲げ、小田原に住みたいという人を快く受け入れ、また、住んでいるかた

にはまちのよさを知ってもらい、ほかのまちへ転出することを減らそうと、さまざまな取り組みを行っています。

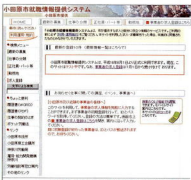
一つ目が小田原に住んでみたいと考えているかたを応援する「居住促進サポートセンター」です。

昨年度の10月から市役所内に設置し、暮らし・仕事・住まいなど、生活全般に関する相談を

受けています。昨年度は半年で約250件、今年度は約130件の問い合わせがありました。主な問い合わせ内容は、新幹線通勤への補助と不動産情報です。不動産情報に関する問い合わせが多いということは、それだけ転居先の候補に小田原が挙がっているということなのでしょう。

二つ目が「新幹線新規通勤支援事業」。





▲市就業情報提供システムのホームページ。URLなどは4ページを参照。

働く世代の転入と定住を進めるため、新たに転入し、新幹線を利用して東京・静岡方面へ通勤するかを対象に最大3年間、交通費の一部を助成しています。昨年度の事業開始から、現在までこの事業を利用して、50世帯119人が小田原に転入して

きました。これらの皆さんがいろいろなどころで小田原のことを話題にすれば、それがそのまま市のPRになることもあるわけですから、その効果は大きなものがあります。

三つ目が育児の心配事を少しでも減らしてもらおうと実施している、おばあちゃんの知恵袋のようなメールマガジン「ママパパ子育て知恵袋メール」です。対象は、妊娠3か月の妊婦さんから2歳までのお子さんを持つママとパパで、現在約700人に、その時期に応じた内容を保健センターの保健師が毎月1回配信しています。

また、優遇税制などにより、西湘テクノパークをはじめ市内工業適地への企業誘致や既存企業の設備投資を支援し、雇用の場の創出に努めるなど、企業が小田原に進出しやすい環境を整えています。

さらに、求職者の就職支援と市内事業者の雇用促進を進めるため、パソコンや携帯電話で、手軽に就職情報が得られるホームページによる「就職情報提供事業」も行っていきます。そのほかにも、雑誌やテレビなどさまざまなメディアで小田原のよさをアピールするなど、さまざまな事業を組み合わせたが、雇用の確保と、人口を増やそうと努めます。

共働きをしている家庭にとって、保育園のことは本当に重要。安心して生活できるかどうかにも関わります。



小田原に住んでみて

これらの効果が表れ、実際に転入してきた方もいます。

昨年5月に川崎市から久野に転入してきた嶋田さんご一家です。東京生まれのご主人と群馬生まれの奥さんとお子さん2人のご家族です。このご一家がなぜ小田原の地を選んだのでしょうか。お話を伺ってみました。

きっかけは子どもの保育

もともと、子どもを育てるには自然の多いところと考えていた嶋田さん。川崎でもその条

件を最大限に満たした場所を選んでいったといいます。

しかし、2人目の子どもが生まれ、家も少し手狭に。転居を考えたときに直接的なきっかけとなったのが、子どもの保育園でした。

「川崎では待機児童が多く、お兄ちゃんと妹で同じ保育園に入れませんでした。別々のところに預けるのでは大変。共働きをしている家庭にとって、保育園のことは本当に重要。安心して生活できるかどうかにも関わりますしね。しかも、保育園の転入は考えられないから、6年間の生活方針もここで決まるの



ですから」と拓也さん。
それならばと、転居の意を固め、本格的な「家」探しを始めました。通勤のしやすいところがいいと、その物件探しは平塚、藤沢、逗子と広範囲にわたりました。その中で、小田原の物件もふと目に。それはとても手ごろな物件だったのです。川崎での家賃をローンの返済費に充てれば、今までもよりも広い一戸建ての家が持てます。しかし、通勤にはちょっと速いと思いましたが「小田原なら新幹線という手もあるわね」と一言。この一言が決定打になりました。「慌てて、新幹線での通勤時間を計算したら、東京駅まで36分。今

までよりもかえって短くなったいました。しかも、かばんの形も変わるようなラッシュの地下鉄を乗り継いでいたところを、ゆったりと座って通えます。しかも乗り換えることなく、1本で。会社から支給される通勤手当に2〜3万円の上乗せをする必要がありますが、それを差し引いてもメリットの方が多いと感じました。」

そして小田原へ

小田原への転居を決めたこの家。ここから、真剣に小田原のまちを研究しました。

「子どもたちは別にして、私たち夫婦は一生を過ごすこと

になるのですからね。インターネットなどで市の情報やお店情報なども調べましたし、実際に下見と車を走らせてもみました。私の仕事が終わってからの夜9時ごろから走り出して、気が付いたら朝の4時になっていました。夜のまちでしたけど、けっこう参考になりました。その後、不動産屋さんに物件を見せてもらって今の家を購入しました。」

転居してよかった

小田原の印象はと尋ねると、「趣味のオートバイで訪れたことがあったので、海、山川と自然を感じると、お城があったり歴史を感じるまちという印象でした。実際に住んでみても、そのイメージにギャップがなくて」と笑う。「車で移動することも多いし、道を譲ってもらえることも多いし、

むしろな運転も少なく感じます。お店の店員さんたちも総じて印象がいいし、本当に人柄のいい人が多いと感じますね。新鮮な野菜や魚なども安く手に入るところも魅力です。古いまちだと閉鎖的という話をよく聞きますが、自治会や隣近所のかたにもそんな感じはなく、とても親切にしてくれます。行政も通勤の新幹線での補助をしてくれるなど、まち全体が転入者を歓迎し



てくれているという雰囲気を感じられましたしね。これも転居の大きな決め手でした。」

最後に、この転居の満足度とは聞くと「私自身は100点満点中120点。とても満足しています。上の子どもは満足度が高いかも。一番生き生きと遊んでいますからね」と結んでくれました。

地域の皆さんも一緒に

このように、転入してきていられるかたは嶋田さんだけではありません。転入してきた人は皆さんの隣人、同じ市民となるのですから、受け入れる側の協力も大きいのです。実際にその地域に住み、さまざまな生きた情報を提供できるのは地元に住んでいる皆さんだけですから。今こそ新しい市民の受け入れ方を考えてみませんか。

おだわらルネッサンス推進本部事業 ～雇用定住促進プロジェクト～

- **居住促進サポートセンター**
 ◎サポートセンター（企画政策課） ☎33-1400
 相談日時 平日8:30～17:15
 相談場所 企画政策課内（市役所4階）
- **小田原に住む！「定住促進モデル事業」**
 ◎企画政策課 ☎33-1400
 新幹線通勤費の補助事業です。
- **就職情報提供システム**
 ◎産業政策課 ☎33-1514
 無料で求人情報を閲覧、登録できます。
 [パソコン版] <http://www.odawara-work.com>
 [携帯版] <http://www.odawara-work.com/m>
- **ママパパ子育て知恵袋メール**
 ◎健康づくり課 ☎47-0820
 子育て情報が満載のメールマガジンです。
 申込 email@mzmz.city.odawara.kanagawa.jp

このほか、ルネッサンス推進本部事業の取り組みなど、詳しくは企画政策課へお問い合わせいただくか、ホームページをご覧ください。
<http://www.city.odawara.kanagawa.jp/informatio/renaissance/index.html>



小田原駅

ベルジュ
証券会社入口

● 市民学習フロア

住所 宋町二丁目8番2号(錦通り交差点横・証券会社跡地) 面積 約159㎡
 整備 平成19年度中の予定
 ※「市民が選ぶ予算の使い道」制度の財源を活用する予定です。

大募集

「市民が選ぶ予算の使い道」、おだわらルネッサンス推進本部事業

駅前緑の空間づくりに あなたの アイデアを!

アークロードの開通や駅ビルの開業など、県西の富士箱根伊豆交流圏の玄関口として、着々と整備が進む小田原駅前。小田原城へと観光客をいざなう道筋に、新たなまちの広場が誕生します。

◎みどり公園課 ☎33-1582

市民の皆さんにも愛される広場、ポケットパークとなるよう、デザインや愛称を募集します。

それと合わせ、錦通りと中央通りに挟まれた三角形の証券会社跡地を、城下町おだわらにふさわしい潤いの感じられる「緑と水」の空間として整備することになりました。

長い歴史と伝統に裏づけられた地域の資産と新しい文化が融合している小田原のまち。まちの活性化の第一歩は、まず、まちを訪れてもらうこと。そして、まちなみを歩いてもらうことです。

コンペの内容

「緑と水」をテーマに、街の中で歩行者が潤いと安らぎを感じることでいいやしの空間となるような広場のデザインを募集します。詳しくは、市役所、マロニエ、いずみほか支所・連絡所で配る応募要領をご覧ください。

なお、選ばれたデザインは、実施の段階での諸条件などから修正することもあります。

テーマ

「緑と水」の感じられる潤いのある広場空間

対象

市内在住、在勤、在学のかた、市内に事業所のある法人や市民団体・学校

賞(デザイン提案)

最優秀賞(1点): 20万円

優秀賞(1点): 5万円

佳作(2点): 各2万円

提案・審査スケジュール

受付: 2月7日～28日に、郵送または直接
 審査: 3月に審査委員会

広場の愛称も同時募集

「緑と水」のいやしの空間がイメージできるような愛称も募集しています(複数可能)。採用された愛称の提案者には記念品を贈呈します。

申し込み先
 〒250-8555 小田原市みどり公園課

インターネットで気軽に学習しよう

「キャンパスeシティおだわら」 3月1日開講!

おだわらルネッサンス推進本部事業

小田原の持つさまざまな資産を生かして、まちじゅうを学びの場とする「キャンパスeシティ構想」。平成17年10月1日から開始している「キャンパスeシティおだわら」に加え、今回新たにeラーニングシステム「キャンパスeシティおだわら」がスタートします。

◎生涯学習政策課 ☎331712
◎おだわらルネッサンス推進本部(企画政策課内) ☎331315



アドレス<3月1日から>
<http://campus-e.city.odawara.kanagawa.jp>

市ホームページ(分野別から探す)⇒生涯学習/文化⇒キャンパスeシティおだわらからもアクセスできます。
受講料は無料です(インターネット接続料金は別途かかります)。
パソコンの環境により動画が見られない場合もあります。

「eラーニング」って?

eラーニングはインターネットなどのコンピュータネットワークを通じて学習することです。

キャンパスeシティでは、インターネットを通じて、動画を含む小田原独自の学習教材を配信し、学びの場を広げますので、パソコンがインターネットにつながる環境であれば、自由に学習できます。「仕事や家事で忙しくて、講座に出掛けれない」「周囲のペースに合わせて学習することが大変」というかたでも安心。自分の好きな時間に、好きな場所です。そして自分のペースで学習できます。あなたの家がキャンパスに!

どんな教材があるの?

小田原の郷土文化の学習につながる教材や、気軽に始められる趣味の講座など幅広い分野の教材を予定しています。3月1日の開始後も、どんな教材を増やしていきますのでお楽しみに!

「キャンパスeシティおだわら」も好評実施中!

対象事業を100回(うち必修10回以上)受講すると、「スカラーおだわら」に認定されます。現在の認定者は3人です。

スカラーおだわらへの道

- ①キャンパスeシティおだわら生徒手帳を入手する(1冊300円)。
- ②広報「おだわらいふ」などで「C(自由)」または「C(必修)」のマークが表示されている対象事業を受講して確認シールをもらう。
- ③生徒手帳に受講記録を記入し、確認シールを貼る。
- ④受講回数が増えたら、キャンパスeシティおだわら事務局へ申し込む。
- ⑤スカラーおだわらに認定。

大学もeラーニングに注目!



関東学院大学
法学部教授
情報科学センター
所長
村上裕さん

eラーニングは、大学をはじめとする教育機関以外に、企業での研修や地方公共団体における生涯学習などでも活用され始めています。

その利点はすでに紹介されているように、インターネットに接続できる環境であればいつでもどこでも受講できること。のほかに、情報発信者の側からすれば映像(動画・静止画)・音声・文字などの複数の媒体を利用できることにあります。大切なことはeラーニングの特性に合わせたコンテンツを用意することです。この点で、教育研究成果を蓄積してきた大学に、社会貢献という意味においても重要な役割が期待されることになるでしょう。



▲市民公開研究会（まち歩き）



◀市民公開研究会（グループワーク）

テーマは 心が豊かになる新しい城下町

小田原には地震などで歴史的なまちなみはあまり残っていませんが、城下町の時代をはじめ、培われた文化や産業がしっかりと息づいています。

こうした中で、市では、景観計画や、新しい景観条例、建築物の高さ規制、屋外広告物条例の施行や幹線道路の無電柱化、街路樹の植栽など、新しい城下町小田原を目指した景観づくり・まちづくりを行っています。

そして、こうした一連のまちなみを整えるためのしくみのもと、市民の皆さんの日々の生活の積み重ねの中から、



新しい小田原らしい城下町の景観や姿が削られていくのではと考えています。そこで、政策総合研究所は、平成18・19年度の2年間にわたる研究テーマを「新しい城下町を考える」心が豊かになるまちの姿（生活景）を目指して」として、新しい城下町としての「生

生活景から 新しい城下町を 考える

地方分権という新しい時代に対応したまちづくりを進めるため、将来に向けた政策を研究する自治体シンクタンクとして平成12年に設立した「市政政策総合研究所」。今年度からは、心が豊かになるまちの姿を研究しています。

◎政策総合研究所（企画政策課内） ☎33-1405

活景」をどのように築き上げるかの研究を開始しました。

平成18年度は、副題に掲げた「生活景」とは何かを研究し、市民の皆さんにも身近な景観である「生活景」を認識していただくとうと、11月12日と12月16日に市民公開研究会を開きました。

公開研究会では、まち歩きやグループワークを通して、参加者とともに身近なまちの風景の中から「生活景」を探りました。

今後は、地域での取り組みを行いながら「生活景」への理解をより深め、市民の皆さんとともに「新しい城下町」のイメージを描き出していきたいと考えています。

生活景とは



政策総合研究所
所長
後藤 春彦さん
（早稲田大学
理工学部教授）

県の景観条例策定を手伝わせていただきましたが、小田原は景観行政を積極的に進めている都市ということで、県下でも注目を集めています。私自身も、小田原は景観のよいところがたくさんあり、さらにそれを磨き上げていくためには、市民が景観を管理していくような視点も合わせて考える必要があると思い、政策総合研究所の研究テーマに「生活景」を掲げました。

「生活景」とは耳慣れない言葉ですが、生活の営みが色濃くにじみ出た景観で、日々の営みの中で生まれた生活環境のことです。それは、目で見る風景のみならず、それを下支えしている地域社会のシステム。例えば、庭木が並んでいれば、風景と、水をやったり、せんでいたりといった緑を管理している人々の暮らしが想像できます。それこそが「生活景」です。

日本の風景が貧困なのは、この「生活景」を失ったからでしょう。だから「生活景」を失ったからといって、身近な生活環境の中から「生活景」を発見し、価値づけ、みんなで共有していかなくてはなりません。「生活景」を生かした景観のまちづくりが大きく期待されていると思います。



安心して 相談できる 身近な消費生活センターに！

平成15年4月に市役所内に開設した「西さがみ連邦共和国消費生活センター」。来年度、開設から5年目を迎えます。しかし、消費生活センターの役割や実際に相談をするにはどうすれば、という疑問をお持ちのかたもいるはず。そこで、ここでは消費生活センターの利用方法などをお知らせします。

◎暮らし安全課 ☎331774 相談専用ダイヤル ☎331777

消費生活センターの役割

消費生活センターは、悪質商法による被害や商品事故の苦情など、消費生活に関する消費者の相談を受ける機関で、地方公共団体が運営しています。相談の内容により、問題解決のための助言や各種情報の提供を行います。また、必要に応じてあっせんなどもします。

また、啓発活動として、消費者トラブルを未然に防ぐためのパンフレットの発行や消費生活に関係する講座などを開くほか、消費者教育のビデオの貸し出しも行っていきます。

受け付けている相談内容

西さがみ連邦共和国（小田原市・箱根町・真鶴町・湯河原町）圏域に在住、行動のかたであれば、どなたでも相談できます。

「悪質な訪問販売で、商品を購入させ

豆知識

あなたも消費生活相談員として活躍しませんか
消費生活相談員になるためには、次の資格のいずれかが必要ですよ。

- ① 国民生活センターの消費生活専門相談員
- ② 日本産業協会の消費生活アドバイザー
- ③ 日本消費者協会の消費生活コンサルタント

いずれも資格取得のための検定試験があり、その他勉強の機会として①と③は養成講座が、②は通信研修講座が行われています。

詳しくは、団体のホームページをご覧ください。センターへお尋ねください。なお、A相談員さんからは、「専門知識を得ることはもちろんですが、先輩相談員との情報交換が不可欠。全国消費生活相談員協会や国民生活センターの研修や講座などにも積極的に参加してくださいね」とのアドバイスがありました。

市長随想

再生から創造へ
「初めの始まり」の年

— 新春仕事始め式挨拶より（二部抜粋）

文 小澤良明

皆さんあけましておめでとう
ございます。今年もよろしくお
願いいたします。

昨年は本市にとっても私自身
としてもここ何年かの中で最も
激動の一年でした。新春を無事
迎えることができましたのも、
職員知恵と汗と情熱のおかげ
であり、何よりも市民の皆さん
のご理解とご協力の賜物です。
心から感謝いたします。

さて平成十九年は、重要な施
策が目白押しな年です。長い時
間をかけて準備してきたこと
がようやく市民の目に見え始め
現れてくる年にもなります。そ
こで今年のキーワードは、昨年
から今年に向かって、あるいは
ずっと先を望んでの私自身の想
いを言葉にいたしました。総合
計画のキャッチフレーズに因ん
で「再生から創造へ」「初めの
始まり」です。

市役所は市民からの預かりも
のです。赤々と燃える心で夢を
現実にする強い意志が必要です
「初めの始まり」の年に各部各
課で、個性と魅力ある小田原
ブランド、小田原方式を創造して
ほしいと思っております。

また、給与や処遇など公務員
にとってまだまだ厳しい時代が
続くことと思いますが民間はと

私たちが 皆さんの相談を 受けています



相談に来られたかたから、「ありがとう。本当に助かりました」と言われるときに最もやりがいを感じるというA相談員は相談員歴13年。

子育て中に何か資格を取って社会復帰したかったことと「消費生活相談員」の資格に主婦の感性が生かせそうだと考えたのがきっかけでした。

センターの役割や限界を説明してもなかなか理解してもらえないときや、業者とのあっせん交渉がうまくいかなかったときは本当に大変ですが、事業者とのあっせん交渉がよい結果になり、相談者の喜び顔が見られるよう、毎日悪戦苦闘しています。

センターには、現在4人の専門の相談員が相談をお受けしていますので、気軽に相談してください。



消費生活の相談ブース。
相談中は仕切られ、プライバシーは守られます。

相談を受けるのは専門員

センターで相談を受けているのは、資格を持った消費生活相談員ですから、内容に即時的な対応ができます。相談内容によりセンターでの回答が難しい場合は、適切な助言ができる相談窓口を紹介いたします。

「自動車の購入のトラブルがうまく解決しない」「子どもが、おもちゃでケガをした」といった個人の消費者からの商品やサービスに関する苦情、業者とのトラブルなどの相談が中心になります。なお、商品の購入に関する相談の場合は、訪問販売など購入時の状況や契約日、商品名、金額、購入先などを控えておいてください。相談がスムーズに運びます。

もちろん、消費生活に関する問い合わせなどもできます。

悩む前に、まずは電話を

西さがみ連邦共和国消費生活センターの場所は市役所の2階です。年末年始・国民の祝日や休日を除き、月曜日～金曜日の9時30分～正午まで、午後は1時～4時まで、相談を受け付けています。相談は直接来所でも、電話でもできます。

今後も相談員と行政職員が一九となつて圏域住民の皆さんが安心して相談できる身近な消費生活センターを目指します。

うなか、隣のうちではどうなのかと、対比する目が必要です。常識、市民感覚を常に大切にしていただきたいと思っています。



個人が生きていけないのに、まちが、組織が活性化するにはありません。一人一人が明確なビジョンを持って行動し、自分の人生を自分でデザインすることによって新たな小田原の未来が拓かれるはずです。「初めの始まり」です。人生の目的はまず自分を磨くことだと言った人がいますが、若男は磨き砂です。一人一人が心の底を磨き、雑草を除き、思いやりに満ちた草花の種をまく。未来への種まきをしっかりとやってみてほしいと考えています。そして、激動の時代を勝ち抜くためには、創造的改革をテコに、新たな成長「ニューグロース」を目指していかねばならないと思っています。生きがい、働きがいのある「魅力ある小田原」は、成長を土台にして初めて創れると思えます。十年後の、百年後の小田原のために、今、私たちがなすべきことは一体何なのか。そんなことをそれぞれが問うていた大きな「再生から創造へ」、そして「初めの始まり」の年を力合わせ懸命に前進してまいりたいと思います。

行革レポート

職員の底力・「行政サービス品質向上(QC)運動」が始まっています！

9月にスタートした「行政サービス品質向上(QC)運動」の二つの柱である「職員提案」と「業務改善提案活動」。その取り組みを紹介いたします。

◎行政経営室 ☎3313305

9月から、全庁一丸となって、「行政サービス品質向上(QC)運動」を行い、職員の知恵と汗による取り組みを進めています。

これは職員一人一人が主役となって、少しでも満足度の高い行政サービスを、より効率的に提供するための運動で、市民のための「品質向上」に、職員の底力を発揮しようとするものです。

職員提案

職員が自らの担当する業務の枠に留まらずに、施策や事務事業に相当する提案を行う「職員提案」には、部長職から今年度の新規採用職員まで、幅広い職員から86件もの提案がありました。

これを若手職員7人で構成する「職員提案ヤングコミッティ」が議論を重ねる予備審査を行った後、提案者自身による事業化の方策を含めたプレゼンテーションを踏まえ、市長

以下全部局長で最終的な選考を行い、6件の提案を選びました。

ただちに提案すべてを事業化するということではなく、また、事業化する際も予算編成の手続きを経ることになりますが、このように多くの職員の知恵と汗が結晶となって、今後の行政サービスの品質向上につながってまいります。

最終的に選抜された提案の一部を紹介すると、

◎オムツ替えや授乳スペースがあるなど、子育てに「優しい眼」を有している施設に統一デザインのサイン表示を行い、小さな子どもを連れて外出しやすくする「子育てジェントルEyesプロジェクト」

◎市内を六つの地域に分けて「ふるさとの原風景百選」を巡るコースを設定し、現地で地域の人が案内して交流を深める「ふるさとの原風景百選を歩き、地域交流を」

◎道路整備やまちづくりの事業の完成イメージが地域ごとにかかる「未来マップ」を作り、ホームページなどで情報発信する「仮称Webおだわら未来マップの作成」などです。

業務改善提案活動

「継続は力なり」をモットーにして、日ごろの業務の中での課題を解決、改善するための提案活動である「業務改善提案活動」を、今年度は2回実施する予定で、11月にその第1回目が終了しました。寄せられた提案は66件、これらの取り組みにより生まれる合理化効果見込みは、3000万円近くにもなります。

これからも、この活動による合理化の実現に努めるとともに、継続的に4か月に1度の割合で「業務改善提案活動」を続け、行政コストの効率化と行政サービスの品質向上を図っていきます。

おだわらインフォメーション

Odawara Information

ペットにはじつけと愛情が大切です

◎小田原保健福祉事務所環境衛生課

☎328000

環境保護課 ☎331481

今やペットは家族、社会の一員です。愛情と責任を持って飼いましょう。近所のかたに迷惑をかけることないよう、飼い主のマナーを考えましょう。

●動物を飼う前に、習性などをよく調べ、最後まで飼えるかをよく考えましょう。

●ペットには鑑札や名札などをつけ、飼い主が分かるようにしましょう。

●繁殖を望まないのであれば、不妊去勢手術を行います。

●動物のふん尿や汚物は適切に処理して、清潔を保ちましょう。

●犬は放し飼いにせず、散歩するときは必ずリードを着けましょう。

●飼い猫が他人の敷地をふん尿で汚さないよう、トイレのしつけをしましょう。

●猫を交通事故や病気の感染から守るためにも、室内で飼育につとめましょう。

市民の皆さんの思いが詰まった 「ふるさとの原風景百選」を 本日から発売!!

◎環境政策課 ☎33 1475

おだわらルネッサンス推進本部(企画政策課内) ☎33 1404



記憶や思い出に残る小田原の身近な風景をまちの財産として見つめ直し、愛着を深めるため、市民の皆さんから思い出やエピソードを添えてお寄せいただき選定したおだわらの「ふるさとの原風景百選」。このたび、一冊の本として発行することになりました。

選定委員の皆さんに熱心に検討を

重ねていただき素晴らしい百選としてまとまった100の美しい原風景をめくくりながら小田原の魅力を共有してください。

市内書店、市役所や公益事業協会の売店などでお買い求めいただけますので、この機会にぜひ手にしてはいかがでしょうか。

定価 1部 1,500円(税込)

選者のコメント

シンガー・ソングライター 白井貴子さん

普通のガイドブックには載っていない、心に訴えかける小田原の風景があります。



原の風景があります。

小説家、エッセイスト、写真家 夢枕獯さん
小田原で生まれ育った私も選定に参加しました。市民の思いが集まって小田原らしい百選になっています。



たと思っています。

おだわらインフォメーション

2月は省エネルギー月間 「省エネルギーは地球温暖化防止活動」

◎環境政策課 ☎33 1473 廊33 1487

私たちは、便利で豊かな生活を手に入れ、当たり前のように家電製品や自動車を使い、また、寒い今の季節には暖房器具で部屋を暖めて快適な日々を過ごしています。

しかし、同時に貴重で限りのある石油などの化石燃料(エネルギー)を消費し、地球温暖化の原因とされている二酸化炭素などの温室効果ガスを排出し続けているのです。

私たち一人一人が「今」、ライフスタイルを見直し、無駄なエネルギー消費を控えること(省エネルギー)は、限りある資源の節約になるだけではなく、温室効果ガスの排出抑制、地球温暖化防止という大きな目的につながります。



地球温暖化防止フォーラム

「ちょっと断断」
～身近な省エネ＝地球温暖化対策～

落語を交えながら、身近で無理なくできる省エネについて楽しく話します。

日時・場所
2月16日(金)18:00～20:00
中央公民館

講師 林家うん平さん(落語家)
定員 80人・先着順 申込 電話で。

できることを「今」日からはじめましょう。

市では、多くのかたに省エネルギー生活を実践し、身近なところから分かりやすく地球温暖化問題をとらえていただくため「京都議定書」が発効された2月16日に、「地球温暖化防止フォーラム」を開きます。

【お詫びと訂正】広報おだわらいふ1月15日号の健康ページ、2月の健康診査などを予定に
対象・妊婦中のかたとご家族 詳しくは健康カレンダーをご覧ください。

「レママ・ババ・沐浴コース」
次の項目が漏れていました。お詫びして訂正します。

2月23日(金)～25日(日)



小田原映画祭

シネマトピア2007

主会場 小田原コロナシネマワールド
http://www.odawara-cinema.com/

2回目の今回は、阿藤快さんの初主演作の上映など多彩なラインナップとなりました。次代を担う映像クリエイターたちの作品がそろそろ「ショートフィルムコンテスト」も必見です。阿藤委員長を中心とした、市民映画祭。をお楽しみください。

※上映作品・ゲストは変更になることがあります。

◎実行委員会事務局
(広報広聴室内) ☎331261

文化庁優秀映画鑑賞推進事業作品

『伊豆の踊子』のみ、前田米造さんのトークがあります。<各500円>

23日10:30～『けんかえれじい』
23日12:30～『八月の濡れた砂』
24日9:00～『キューボラのある街』



25日9:00～『伊豆の踊子』



SONY「4Kデジタルシアター」

23日20:00～

ソニーなどの協力により、フルHDTVの4倍を超える高画質の「デジタルシネマ」。昨年公開の超大作を上映します。<無料>

申込
2月14日(水)まで(必着)に、住所・氏名・電話番号・人数(最大2人まで)を書いて、往復はがきで(多数抽選)。平250-8555 小田原市広報広聴室「4Kデジタルシアター」係

小田原ゆかりの映画上映 & 市民スタッフセレクション上映

小田原ゆかりの映画人・山根成之監督作品。『同様時代』には脚本家・石森史郎さんのトークがあります。<各500円>

24日14:50～『さらば夏の光よ』
24日16:55～『同様時代—今日子と次郎—』

小田原出身の富野由悠季監督の名画をオリジナル一挙上映。<3,000円(3本セット)>

24日22:00～4:00
『機動戦士Zガンダム—星を継ぐ者—』
『機動戦士ZガンダムII—恋人たち—』
『機動戦士ZガンダムIII—星の鼓動は愛—』

※18歳未満のかたは入場できません。

深川栄洋監督の舞台あいさつがあります。<1,000円>

25日15:00～『狼少女』



オープニング上映

保坂延彦監督・烏丸せつこさん・阿藤委員長長のトークがあります。<1,000円>

23日16:30～19:25
『そうかもしれない』



先行プレミア上映

阿藤委員長の初主演作。委員長の舞台あいさつもあります。<1,000円>

23日14:30～『一万年、後...』



【チケット】

- ショートフィルムコンテスト / 当日、整理券を配布
 - 前売券 / 当日窓口で入場券と引換
 - 当日券 / 2月16日(金)までに、広報広聴室 マロエ、いすみ、アークロド市民窓口で。
- 上映当日に小田原コロナシネマワールド窓口で販売

阿藤快さん
小野修さん
吉野公佳さん
前田米造さん
瀧木直貴さん

ショートフィルム部門は、阿藤委員長ほか4人の審査員が最終審査を行い、グランプリ、西さがみ賞、審査員特別賞を贈ります。携帯ミニミニムービー部門は29本の入選作品の中からインターネット審査や当日の一般投票など入金・銀・銅賞を贈ります。

入選作品は、24日、25日に会場で行われ、表彰式は25日にダイナシティウエストキャニオンで行います。

CINEMATOPIA 2007

ショートフィルムコンテスト

携帯ミニミニムービー部門
入選作品 配信中!
(一部機種のみ)
http://bizdev.slx.jp/odawara/

関連・協賛イベントもいっぱい

- 2月17日(土)13:00～ 静岡放送(140.4kHz)「愉快!痛快!阿藤快」の公開放送などをダイナシティウエストキャニオンで。
- 2月17日(土)～3月2日(金) 昨年公開の邦画の話題作をTOHOシネマズ小田原(☎46-0550)で上映(詳しくは直接お問い合わせください)。
『佐賀のがばいばあちゃん』『ゆれる』『かもめ食堂』『時をかける少女』『嫌われ松子の一生』『フラガール』

歴史街道

～小田原を愛した人々 29～

平成9年度から24回連載され好評だった「歴史街道」の続編として、5回にわたって明治期以降、小田原を舞台に活躍した著名人を中心に、近代史に登場する人物を紹介していきます。(第5回)

小田原の史跡保存に尽力した尾崎亮司

郷土歴史家 三津木 國輝



★尾崎亮司

お堀を埋め立てて利用しよう

明治三十七年(1904)尾崎亮司、辻村常助、押郷勇、磯部白佑などが、小田原の史跡を保存する会として小田原保勝会を起した。

この会は、その後大正三年には「小田原において史蹟・名勝天然記念物の保存を図るを目的とし、併せて町の繁栄を為すこと」と規約を整え、事務所を尾崎亮司宅とした。

亮司が記した「小田原保勝会沿革並記録」によれば、

「我が小田原保勝会ハ明治卅七年小田原小学校同窓会ノ中、史蹟保存ニ趣味ヲ有スルモノノ集団ニシテ専ラ資料ノ蒐集史蹟会ノ開催ヲ目的トシテ起リタルニ端ヲ発シ其後単ニ名所旧蹟ノ保存ニ止マラス汎ク一般ニ小田原ヲ紹介スル意味ニ於テ絵葉書発行、雑誌ノ刊行、名士ヲ招聘シテ講演会ノ開催其他町繁栄ニ資セント遊覧者ノ足止め兼テ夫マニ施シタル等暫次社会的事業ノ施設ヲ為スニ至リ大正三年別記ノ通り会則ヲ新タニシテ基礎ヲ固メ；以下略。」と記された。以後多くの事業を実施した。すなわち大正四年には城跡の堀に運根を植え付け、大正五年には元弘の役

の五忠臣の一人、平成輔の墓所の復旧を行い、大正七年にはお堀端につづじの植栽を実施した。

大正九年七月十六日夜には大松明と浜施鐵鬼を復活すると共に八月十五日に新しい企画で御幸の浜海上花火大会と燈籠流しを実施した。また「小田原の史実と伝説」を創刊して町民の歴史に対する認識を高めた。

大正十一年には大正天皇が皇太子時代には花の見事なことに感動されたことから「御感の藤」と名づけられた唐人町(現浜町)の名物であった藤を保勝会が譲り受けてお茶壺橋際に移した。ところが、藤があまりにも大きいことから、国道の往來を妨げるという理由で、小田原警察署はこれを不許可とした。

たまたま二宮神社で研修中の掛川報徳社青年部の人たちがこの話を聞き「どうせ俺たちは明日帰ってしまふから」と三月十八日夜陰に乗じて強引に運搬し、翌日の一番列車で帰ってしまふした。翌日搬送の指揮をした植木職富士繩某が代って挙げられ、二日間の留置で決着した。

なお、このときの経費二十円は亮司が個人で負担した。

しかし何と云っても小田原保勝会の行った事業でその功績の大きなものは、小田原城跡のお堀埋め立ての阻止の運動であろう。

それは財政難の小田原町が、第二小学校(元城内小)と町立高等女学校(元城内高)の移転敷地を、御用邸であった小田原城跡のお堀を埋め立てて利用しよう

に出願し、昭和二年十二月許可となったことである。これを知った保勝会は各組合並びに団体に呼びかけ、全町に亘って反対運動を起した。その結果、神奈川県知事の調整案により、中堀のみの埋め立てで、伐木も制限されることになり、城跡の破壊も一部分で食い止められることになった。

亮司は明治九年(1876)八月二十日、小田原宿小伊勢屋旅館の主尾崎壯三の長男として生まれた。小学校卒業後は郷土史の研究にのめり込んでいた。明治三十一年四月十三日、亮司(二十三)は小田原町助役片岡水左衛門の長女ヨシ(十九)と結婚した。

その後しばらくして東京神田猿樂町で古書店を開業し、小田原関係の古書籍や報徳関係の本を収集した。

大正六年文社三が隠居することになり、家業を継ぐため求心堂古書店を開店し小田原に戻った。小田原に戻った亮司は家業は夫人に任せ保勝会の事業に傾注した。

大正十五年脳溢血で倒れるが、その後快復してお堀埋め立て反対運動に奔走するが、昭和九年八月十九日四度目の発作をおこし翌二十日死去した。享年五十九歳。菩提寺は福田寺で諡り名は、亮濟院担阿呆勝司徳居士である。

【お詫言ひと訂正】

広報小田原10月1日号の「小田原の女子教育」に書かれた新名「刃」の記述に「寺内蔵石の傍らに同窓会の人々によって造幣の碑が建てられていて」とありますが、その後の碑は取り払われてしまふ、現在ではありません。訂正してお詫言ひいたします。

木のぬくもりを伝えたい!

Mokuture^{モクチャー}「あなたのウッドクラフト展」

準大賞



作品名 赤ちゃんのおもちゃ
提案者 山本なつきさん
(町田小2年生)
制作 南たんぼぼ



作品名 思い出ベンチ
提案者 小宮山桃子さん
(明星中3年生)
制作 ミコー産業㈱



作品名 黒ちゃん
提案者 代田亜樹さん
(仙石原中2年生)
制作 南たんぼぼ

優秀賞



作品名 箱根オセロ
提案者 久保あかりさん
(富士見小5年生)
制作 南本間木工所



作品名 地球がたごみ箱
提案者 太田修造さん
(豊川小4年生)
制作 大川木工所



作品名 カーテンかざりどめ
提案者 川崎結さん
(芦子小6年生)
制作 南おくや物産

大賞

作品名 Seasoning Animals
提案者 武田安里沙さん
(城北工業高2年生)
制作 南おくや物産



定しました。

第1次審査を通過した30点を若手木工芸職人が実際に作品化し、12月6日に最終審査を行いました。大賞ほか各賞が決

018点もの応募がありました。を募集したところ、1、

小田原・箱根地域の青少年に、地元の伝統である木製品への興味を深めてもらおうと毎年行っている、Mokuture「あなたのウッドクラフト展」。

今年も、小田原、箱根地域の青少年から自由な発想で木製品の新たなアイデア

今回、大賞を受賞した作品のアイデアを出した武田さんと、実際に制作をした奥谷さんにお話を伺いました。

Interview



城北工業高2年生
武田 安里沙さん

我が家では調味料が食卓に出ているので、自分が好きな動物をデザインした入れ物を考えました。賞を取れるなんて思ってもいなかったのですがイメージどおりのかわいい仕上がりでとてもうれしいです。早く使ってみたくて、今からとても楽しみです。



箱根物産連合会
青年部会員
奥谷 晃さん

デザインを見たとき、調味料入れのセットはあまりないので、全体的にパランスが取れていていいなあと思いました。デザインを崩さないように注意しながら作りましたが、歌らかい感じを出すための素材選びに苦労しました。作品は飾っておくのではなく、ぜひ実際に使ってほしいです。

***** モクチャー作品展 *****

今回紹介した大賞作品をはじめとする30点の入選作品を、次のとおり展示します。また、この展示会は来年度も行いますので、皆さんも今から楽しいアイデアを考えてぜひご応募ください。

- 【第1回】2月17日④・18日⑥10:00~17:00 小田原宿なりわい交流館
- 【第2回】2月23日⑤~25日⑥10:00~17:00 箱根観光物産館
- 【第3回】3月 3日④・4日⑥10:00~20:00 ダイナシティウエスト キャニオン

※3月4日は16:00まで

【表彰式】3月4日⑥16:00~ ダイナシティウエスト キャニオン



今月の笑顔

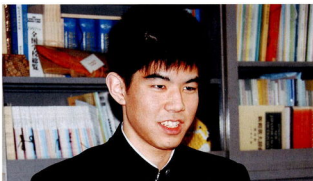
元気あふれる人たちの笑顔は、
見ている人たちにも
力を与えてくれるもの。
このコーナーでは、
みんなが元気になるように、
素敵な笑顔をお届けします。

「まさかこんな賞を取れるとは思っていませんでした。驚きです」とさわやかな笑顔で語る若林さん。

今回の研究テーマ「1日100gのごみダイエット」を思いついたきっかけは、家庭科の授業で市の「みんなでチャレンジごみ減量100g」を学んだとき、実際どれだけの効果があるのか調べてみたかったから。

「5月から2か月間毎日、自分の家を出たごみの重さを量り、生ごみは市に借りた電動式生ごみ処理器に入れ、できた堆肥は、色や手触りを調べました。また、夏休みに家族4人分の夕食のカレーライスを自分で作けることで、実際にごみがどれだけ出るのかも分りましたよ」とさらさらと言います。

苦労はなかったのか尋ねると、「レポートをまとめるときに、減量の効果はどう分りやすく伝えるか、そこが一番悩みました。多くの人に効果を知ってもらい



城山中学校2年 若林 弘樹さん

県の「環境にやさしくらし自由
研究・実践レポートコンクール」
で最優秀賞を受賞

たかったから。ただ、悩んだ分、得たものも大きかったようです。

「今回の研究で、日ごろの積み重ねがいかに重要か分かりました。一人一人の小さな意識が大きな結果をもたらす。無理なく無駄なく、習慣づけて行うことが大事だと思います」ときっぱり。

週2回、剣道のけいこにも励み、将来の夢は科学者。すがすがしくしゃべりと話す言葉には説得力がありました。

お知らせ

地域

に密着した情報をタイムリーにきめ細かく放送することで、地域の活性化はもちろん、一体感を生むことも期待される「FMコミュニティFM放送」。ふだんは地域に根ざしたイベントや生活、学校の情報などを放送しながら、風水害や地震など、いざというときには災害の情報を中心に提供する予定です。

昨年4月の自治会や商工会議所などの各団体からなる〔仮称〕小田原コミュニティ放送局の設立を応援する会からの応援宣言を受け、市や商工会議所、金融機関など、小田原の各種団体が出資し、10月末にFM小田原株式会社が設立されました。

そして、1月15日に総務省から予備免許を取得し、スタジオを市役所の1階、送信アンテナを屋上に作る工事を急ピッチで進め、完成次第、試験放送を開始します。

この放送は、実際の放送を行うスタジオや機材に不具合がないかなどを確認するためのものです。この放送を終えると、今春の開局へ向けた動きが加速します。

詳しい開局のスケジュールやお手伝いいただけるボランティアの募集など、詳しくはFM小田原（☎3551500）へお問い合わせください。

ホームページアドレス <http://fm.odawara.com>



試験放送が始まります
～周波数は78.7MHz～

●広報広聴室 ☎33-1261

連載

学校自慢!

このコーナーでは、小・中学校でのユニークな取り組みを紹介し、子どもたちの生き生きとした表情を見ると、小田原の未来も安心!という気持ちになりますね。

●教育政策課 ☎33-1671

今月号は…

白鷗中学校
(生徒数:412人)



伝統の海岸マラソン

海岸マラソンの歴史は、開校した昭和22年12月の全校マラソン大会に端を発しています。国道1号線を使い、男子は湯本、女子は入生田付近まで往復する、年1回の校内マラソン大会として位置づけていました。

昭和30年代後半になると、交通事情の変化から海岸を走るようになり、昭和44年から現在の海岸マラソンの原型となる定期的な取り組みを開始しました。以後、昭和61年までは男女30位までの記録の計測のみで、速い人が脚光を浴びる方法でしたが、昭和62年以後は全校生徒のタイムを計測するようになりました。

特に平成14年から16年までの3年間は選択体育として実施し、自分の体力の限界(自己記録)に挑戦するファーストラン、一定リズムを崩さずに走るイーストベース、そしてリラククスして走るスローランの3コースを選び、目標タイムとの差から評価も行いました。

平成17年から学校行事として年4回の開催となりましたが、持久力の向上が最も目覚ましい中学生期に、海岸という素晴らしい自然環境の中で行われています。実施日には全校生徒のほかに、希望する教師も走ります。

山王公民館までの往復約1.3kmを、5分台から18分台と記録はまちまちですが、個人の目標タイムに合わせて精一杯風を切る姿が見られます。

海岸マラソンでは、キラキラと輝くとても美しい砂浜を、真っ白なカモメたちが駆け抜ける特別な時間が流れます。

砂浜で走るようになったのは中学生になってからなので、最初はつらかったけど、だんだんと慣れてきました。自分のタイムを伸ばすのは大変だけど、新しいタイムを出せた瞬間は達成感があり、とても気持ちいいです。これからも海岸マラソンを楽しみながら、記録更新に挑戦していきたいです。



川 朱音 さん
(1年生)

海岸マラソンは、伝統のある白鷗中の忘れてはならない行事です。三年生としてこの伝統を後輩にしっかりと受け継がせていきたいと思っています。自分が全力疾走することで、後輩への「良い手本」となり、少しでも彼らが取り組む気になってくれればと思っています。



原 正哲 さん
(3年生)

Close Up

注目情報をお届け!



地域の魅力を商店街から発信!
「しもそが五郎十郎市」開催
～おだわらルネッサンス推進本部事業～

地

域資源を活用してまちの魅力を広く発信し、まちにぎわいと交流を作り出そうと、日本三大

あだ討ちの一つとして名高い曾我兄弟にちなんで、昭和のはじめに催されていた市を復活させた「しもそが五郎十郎市」。下曾我商工振興会が中心となって地場産品の即売会、フリーマーケットなどを行います。

会場付近では「梅まつり」も開催していますので、梅の香りを楽しみながら、立ち寄られてはいかがでしょうか。

日時 2月24日(土)・25日(日)
9時～15時

場所 梅の里センター特設会場

◎産業政策課 ☎331511

おだわらルネッサンス推進本部

(企画政策課内) ☎331404